

持続可能な暮らし方とは？ — 心豊かな価値観の転換 —

東北大学大学院 みつ はし まさ え
環境科学研究科 **三橋 正枝**

1. 心の豊かさや価値観の転換

持続可能な社会を実現するには、大量生産大量消費で多くのモノが廃棄される現在の消費社会から、資源やエネルギーを無駄にしない循環型社会へ移行する必要があります。そのためには今の暮らし方を見なおし、価値観を転換しなければなりません。価値観を転換するために、在来知を活用し、多世代で共創することの有効性を実証する「未来の暮らし方を育む泉の創造」プロジェクト[†]を2015年より実施してきました。本研究プロジェクトでは自然環境の異なる国内4つの地域（豊岡市、北上市、沖永良部島、志摩市）を対象に、それぞれの地域で持続可能な未来の暮らし方を描き、それらを実現していくためのワークショップを開催しました。そこで重要視したのは心の豊かさです。楽しみながら価値観を転換することが重要と考えました。本稿では沖永良部島に焦点を当てて報告します。

2. 未利用資源の情報と価値の共有

日本では、大きさや形を基準に農産物の価値が決められ、数が少ないものや規格外となった多くの野菜が廃棄されています。2016年から本研究プロジェクトの一環で、未利用資源の活用を考える検討会を開催しました。対象地域の一つである三重県志摩市で検討を開始し、さら

に鹿児島県の奄美群島にある沖永良部島でも事業者の方や町職員、県職員ら十数名が集まって、さまざまな未利用資源について議論を重ねました。ときには冗談を言い合いながら、皆で楽しく議論することで、地域に存在する未利用資源情報が共有され、一人ではどうすることもできなかったことに、希望や楽しみが湧き出てくることができました。また自然環境が異なる地域では、同じ素材でも用途が違ふこともあり、志摩市と沖永良部島の情報交流は、類似する未利用資源を違う角度からみることができ、異なる価値を共有し合う楽しい語らいの場となりました。そして、新たな視点に目を向けるようになり、価値観に変化が生まれました。

3. 島の自然で彩りを（写真1）

沖永良部島では、自発的にさまざまな



写真1 えらぶ色クレヨンとジャガイモねんど

取り組みが行われており、その一つに宮澤夕加里さんが主宰する「えらぶ色クレヨン」プロジェクトがあります。マンゴーの受粉を助けるミツバチたちが作った蜜蝋でクレヨンを作っています。

色は桑の葉やイカ墨など、沖永良部島の自然界にあるもので彩られており、匂いや書き味も素材によって異なります。また沖永良部島では多くのジャガイモが規格外となっており、それらを活用した「ジャガイモねんど」が新たに完成しています。こちら島の自然素材で彩られています。クレヨンを使ったワークショップも開催しており、匂いや色で素材を当てながら、楽しく島の自然や資源循環を学ぶことができます。自然の穏やかな彩りで、子どもたちの心も優しく豊かに育まれます。

4. 南の島の暮らしの知恵

町づくり協力隊として沖永良部島に移住し、井戸端あ〜みちやを主宰する吉成泰恵子さんは、島の暮らしがもっと楽しくなるようにと、さまざまなイベントを開催しています。その一つに「あしきぶふえすた」があります。仲間とともに年に一度開催している、ロハスをテーマにしたお祭りです。フリーマーケットのブースを設け出展者を募り、衣類などを捨てずに必要な人に循環させるきっかけを作っています。また「えらぶ手帖」という情報サイトを立ち上げ、ごみを減らす調理方法や島の保存食など、島ならではの生活の知恵を研究しながら暮らしに役立つ楽しい情報を発信しています。

島ではウディと呼ばれる蕪が自生しており、時には邪魔者扱いされてしまいます。ウディの葉を塩漬けにし、子ども

らと一緒に楽しくおにぎりを作るワークショップも開催されました（写真2）。これらの活動を通じて、持続可能な暮らし方に目を向ける人が少しでも増えればと、日々チャレンジし続けています。

5. 心の豊かさを育むものづくり

冒頭の研究プロジェクトでは、小学生を対象に、まな板作りワークショップを開催しました。まな板は家庭でほぼ毎日使う調理用具です。子どもらは自分の作ったまな板が、毎日家族の役に立つことで自分の存在価値を認識し、それが嬉しさや自信に繋がります。そして、それまで興味がなかった食事の準備を手伝う子が現れ、嫌いな野菜も食べるようになるなど、子どもにさまざまな変化が起きたという報告がありました。また子どもだけでなく保護者にも変化がありました。準備をとにもすることで、子どもとのコミュニケーションが増え、モノを大切に使うことを意識しだすのです。一緒に料理をすれば、食ロスの削減にも繋がるかもしれません。

このように、ともに学びながら楽しく実践することで、社会課題を解決する暮らし方に無理なく移行できるのです。



写真2 ウディ葉の塩漬けでおにぎりを

[†]「未来の暮らし方を育む泉の創造」プロジェクトは、(国研) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域平成27年度（2015）採択プロジェクトです